

裾野市立須山小学校の 小規模特認校制度の導入に関する提言書

令和 8 年 7 月 29 日 提言

裾野市須山地区学校再編推進協議会（小学校分科会）

－ 目次 －

1	提言の趣旨（はじめに）・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2	現状・・・・・・・・・・・・・・・・	2
3	検討課題（協議会での協議内容）・・・・・・・・	3
4	特色ある教育の段階的取組・・・・・・・・	7
5	広報活動・・・・・・・・	9
6	おわりに・・・・・・・・	10

Ⅰ 提言の趣旨（はじめに）

裾野市では、急速な少子化の進行や学校規模の小規模化を背景として、令和5年3月に「裾野市学校教育施設再編基本計画」を策定し、将来を見据えた持続可能な学校教育環境の構築に向けた取組を進めてきた。

本計画では、施設の統廃合のみを目的とするのではなく、子どもたち一人一人にとって望ましい教育環境を確保することを最優先の考え方として位置付けている。

この計画に基づき、須山地区においては、須山小学校の存続と教育環境の充実を図る方策として、小規模特認校制度の導入が検討されてきた。これを受け、須山地区学校再編推進協議会（以下「協議会」という。）では、令和7年度以降、全体会及び小学校分科会を通じて、地域、保護者、学校関係者が一体となり、須山小学校の将来像や特色ある学校づくりについて継続的な協議を重ねてきた。

本提言書は、これまでの協議内容を踏まえ、須山地区として共有された考え方や方向性を整理し、須山小学校及び裾野市教育委員会に対して提言することを目的として取りまとめたものである。

2 現状

須山地区においても、少子化の影響を受け、須山小学校の児童数は今後も減少傾向が見込まれている。また、未就学児の状況等を踏まえると、将来的に複式学級※の発生など、教育環境への影響が懸念される状況にある。

一方で、須山地区は、豊かな自然環境や地域文化、地域住民の学校への温かな関わりなど、多くの強みを有している。これらの地域資源をどのように教育活動に生かし、須山小学校の魅力として整理・発信していくかが、今後の重要な課題である。

須山小学校の児童数（令和8年4月1日現在） (人)

小1	小2	小3	小4	小5	小6	計
14	13	15	13	11	15	81

須山地区の未就学児数（令和8年4月1日現在） (人)

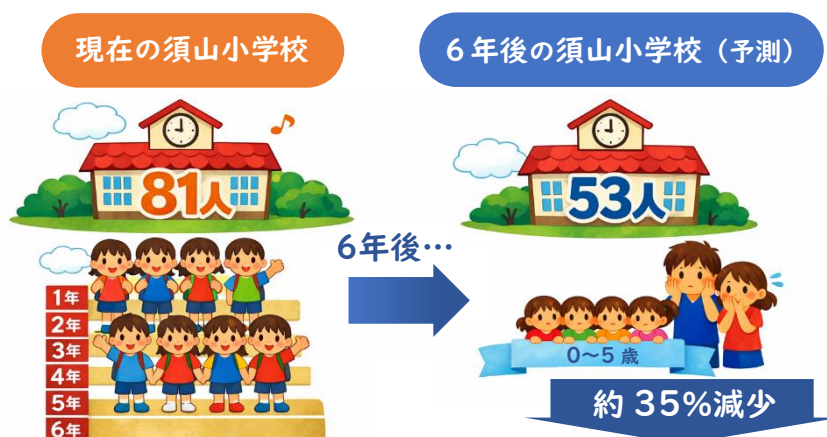
0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	計
7	6	9	13	8	10	53

計 13 人
複式学級の発生

※複式学級

2つ以上の学年をひとまとめにした学級（クラス）

県基準：複数学年で14人以下（国基準は16人以下）



3 検討課題（協議会での協議内容）

協議会では「現状（強み・課題）の整理」「育てたい子どもの姿の明確化」「育てたい子どもの姿の実現に向けた方策の検討」という3つの段階に沿って検討を進め、それぞれの段階において具体的な検討課題を設定し協議を行ってきた。

以降に、これまで協議した6つの検討課題について協議結果を整理するとともに、今後に向けた方向性を提言として示す。

話し合いの柱①：「現状（強み・課題）」の整理

検討課題１ 須山地区の魅力について

須山地区の魅力として、「豊かな自然環境」「伝統文化」「地域の温かな支援」の３点が挙げられた。

須山地区の人・自然・歴史・文化といった豊かな地域資源は、学校教育において重要な役割を果たすものであり、これらはまさに「**須山まるごと学習教材**」であるとの認識が共有された。

自然環境については、富士山の麓で高山植物や昆虫など学習素材が豊富にあり、四季を生かした体験活動ができるほか、スキーや雪遊びなど地域特性を生かした活動が可能である点が評価された。

伝統文化については、須山浅間神社やお神輿やしやぎりなどの行事が数多く残され、身近に触れる機会がある一方で、その意味や価値の理解を深める必要性も指摘された。

また、地域住民による支援は厚く、体験活動を支える温かな環境が整っていることも大きな特徴である。

これらの魅力を生かすためには、単なる体験にとどまらず、学びを深め、郷土への誇りや愛着につなげていく視点が求められる。

検討課題２ 須山小学校の子どもたちの実態と魅力について

須山小学校の児童は、異学年交流を通じて思いやりや素直さを育み、地域との関わりの中で温かな人間関係を築いている。また、自分の考えを安心して表現しながら、対話を通じて学びを深めている。

さらに、自然への関心が高く、互いに支え合いながら学ぶ姿が見られるなど、少人数ならではの良さを生かして成長している。

一方で、人間関係が固定化しやすいことや、競争心・主体的に挑戦する力を育むための機会の充実が課題として共有された。

これらを踏まえ、児童が持つ強みを生かしながら、挑戦の機会や多様な関わりを意図的に広げ、自ら考え行動し、自分の良さを語ることができる子どもの育成を推進していくことが求められる。

話し合いの柱②：「育てたい子どもの姿」の明確化

検討課題3 教育理念について

須山小学校が目指す育てたい子どもの姿として、「主体的に挑戦する力」「思いやりや社会性」「一人一人の個性の発揮」「須山への愛着を持ち続け行動できる力」が共有された。

これらの姿は、学校のグランドデザインに掲げる「達成感」「自己有用感」「自己肯定感」の3つの感を重視した取組と重なるものであり、学校教育目標である「自信をもって自分らしく輝く子」の実現につながるものである。

今後は、この目指す姿を明確に共有しながら、一人一人が主役となり、自分らしく輝く子どもの育成を着実に推進していくことが必要である。

検討課題4 小規模特認校だからこそ実現できる教育の価値

少人数であるからこそ、一人一人の状況や特性に応じたきめ細かな対応が可能であり、すべての児童が役割を持ち、リーダーとして活躍する機会が保障されている点は、須山小学校の大きな特長である。

また、横浜国立大学の高木名誉教授の指導に基づく「聴いて考えてつなげる授業」を中心とした対話的な学びは、日々の授業にとどまらず、中学校、高校、そして社会の中で生きていく上でも重要となる資質・能力を育成するものであり、その意義は大きい。



「聴いて考えてつなげる授業」
上級生が下級生の授業を見守り、
良い点を見つけている様子

さらに、幼稚園と小学校が日常的に交流・連携していることにより、子ども同士の自然なつながりが育まれるとともに、保護者にとっても安心感のある教育環境が形成されている。

今後も、学校・家庭・地域が思いを共有しながら、須山小学校ならではの教育を着実に積み重ねていくことが期待される。一方で、地域の協力に支えられている現状を踏まえつつ、関わる人材の固定化といった課題も見られることから、より多様な地域人材が関わる機会を広げ、学校と地域の協働をさらに充実させていくことが求められる。

話し合いの柱③：「育てたい子どもの姿」の実現に向けた方策の検討

検討課題5 特色ある教育について

須山の自然環境や伝統文化、地域資源に加え、地域の人々との関わりを生かした体験的な学びを基盤とし、これまで須山小学校で培われてきた取組を大切にしながら、同校ならではの特色ある教育を展開していくことの重要性が共有された。具体的には、農業体験や地域行事への関わり、自然体験活動に加え、将来的には富士山に関する学習や登山体験、コミュニケーション能力の育成を目的とした英語やICTを活用する取組などについても検討し、子どもたちが地域の人々と関わりながら学ぶ機会の充実を図っていくことが期待される。

これらの取組については、「須山まるごと学習教材」として整理し、継続的かつ効果的に活用していくことが重要である。

今後は、現在の取組を継続しながら無理のない形で内容を精選するとともに、段階的な充実や新たな取組も視野に入れ、須山小学校の特色として定着させていくことが重要である。

検討課題6 地域や保護者との連携強化について

小規模特認校制度の実効性を高めるためには、学校・家庭・地域が連携しながら子どもを育てていく体制づくりが不可欠であるとの認識が共有された。

須山地区においては、これまでも地域による支援が充実しており、学校教育を支える重要な基盤となっている。一方で、その担い手が固定化している可能性も指摘されていることから、「すやまるサポーター（須山小学校の活動を支えるボランティア）」を活用・発展させ、誰もが関わりやすい形で多様な人材が参画できる体制づくりが必要である。

また、保護者に対しても、教育内容や特色について丁寧に発信し、学校の取組への理解と参画を促していくことが求められる。

今後は、地域人材の活用の幅を広げるとともに、「すやまるサポーター」の充実や新たな担い手の参画を促進しながら、学校運営への参画の在り方や情報発信の充実を図り、持続可能な協働体制を構築していくことが求められる。

4 特色ある教育の段階的取組

協議会では、小規模特認校制度の導入を見据える中で、須山小学校においてどのような特色ある教育を展開していくことが望ましいかについて、継続的に協議を重ねてきた。

その際、すべての取組を一度に実施するのではなく、短期・中期・長期と段階的に整理し、無理のない形で検討・展開していく必要があるとの考えが共有された。これは教育の質を高めると同時に、教職員や地域に過度な負担を生じることを避け、持続可能な学校づくりを進めるためである。

こうした考え方を踏まえ、協議会では、これまでの協議内容をもとに「特色ある教育の段階的整理表」を作成した。本整理表は、須山地区及び須山小学校における教育の方向性を将来に向けて見通すためのたたき台として提示するものであり、具体的な取組内容や実施時期を決定するものではない。

本整理表を通じて、須山小学校の特色ある教育について共通理解を図るとともに、今後の検討を進めていく際の基礎資料として活用されることを期待する。

特色ある教育の段階的整理表

	短 期 (R10～R14)	中 期 (R15～R19)	長 期 (R20 以降)
取組の内容 (例)	現在行っている地域学習や体験活動を「継続」し、内容を整理して分かりやすく「発信」する ・聴いて考えてつなげる授業の継続 ・たてわり活動（異学年交流）の継続 ・須山幼稚園・中学校との日常的な交流の継続 ・スキー教室の継続 ・地域とのつながりの継続 (昔の遊び、須山太鼓、農業体験、焼き芋大会) ・地域の伝統事業を題材とした学びの継続 ・富士山学習、登山体験、登山道清掃の検討 ・通学支援の手法を早期検討 ・地域の仲間づくりの募集 ・入学希望者増のための広報手法の検討 ・児童によるICTを活用したPR動画の作成	地域と連携した体験活動の回数や内容を少しずつ「充実」させる ・スキー教室の回数増加 ・農業体験の発展 → 種植えから育成、収穫までを体験 ・コミュニケーション能力の育成を目的とした外国語の学びの検討 ・富士山学習、登山体験、登山道清掃の実施 ・通学支援の実施	須山小ならではの特色として、「継続的な教育の柱」を整理していく ・他校（臨海学校）や姉妹都市校との交流の実施 → 須山小学校（林間学校）⇔ 臨海学校 ・農業体験の更なる発展 → 収穫した作物の活用の検討 → → 販売や商品開発の検討（学びを柱に） ・通学支援の拡大 ・短期通学体験（デュアルスクール）の検討
		・特別教育協力者（地域とのつながり）による魅力ある授業の実施 (キャンプ・気球体験、昆虫・野鳥観察、須山工業団地社会科見学、準高地トレーニング指導、自衛隊見学など)	
地域や保護者の参画・支援	・地域の仲間の推薦、紹介（人的支援） ・広報の作成（人的支援・金銭的支援） ・PR動画の作成（金銭的支援） ・ICT分野の専門人材の招聘（金銭的支援）	・スキー教室の回数増加（金銭的支援） ・農業体験支援（人的支援） ・外国語人材の雇用（金銭的支援） ・通学支援（人的支援・金銭的支援）	・交流校への交通支援（金銭的支援） ・通学支援の拡大（人的支援・金銭的支援）

5 広報活動

小規模特認校制度の導入にあたっては、制度の趣旨や須山小学校の魅力を、地域内外に丁寧に周知していくことが重要である。

協議の中では、函南町立丹那小学校におけるプロモーションビデオの活用事例が紹介され、視覚的に学校の魅力を伝える広報の有効性が共有された。

須山小学校においても、学校での日常の様子や地域との関わり、特色ある教育の取組などを分かりやすく発信する手法について、地域や教育委員会と連携しながら検討・充実させていくことが求められる。

あわせて、児童がＩＣＴを活用してＰＲ動画を作成する取組についても検討し、ＩＣＴ能力や情報発信力の育成に加え、須山地区について考え調べることを通じた郷土愛の醸成にもつなげていくことが期待される。

ＰＲ動画作成に向けては、地域から支援の意向も示されており、学校・地域・行政が連携した魅力発信を進めていくことが望まれる。

6 おわりに

本提言書は、協議会において重ねてきた協議の成果を整理し、小規模特認校制度の導入に向けた方向性を示したものである。

協議を通じ、須山小学校の教育環境には、豊かな自然や伝統文化、地域の温かな支援といった強みがあり、これらを生かした教育の可能性が共有された。とりわけ、須山小学校を中心に、「地域全体で子どもたちを育てていこうとする想い」を確認することができた。

また、須山小学校の魅力を高めていくためには、外部への発信だけでなく、まずは現在の須山の子どもたちが、いかに豊かで充実した教育活動の中で学び、成長していくかが重要である。こうした日々の取組を丁寧に積み重ね、その質を高めていくことが、結果として須山小学校の魅力の向上につながるものであり、今後の検討にあたっては「子どもファースト」の視点を基本とすることが求められる。

今後は、本提言で示した内容をもとに、須山小学校の特色ある教育の充実と、小規模特認校制度の円滑な導入に向けた具体的な検討が進められることを期待する。

なお、小規模特認校制度の導入にあたり、今後の具体的な方向性の検討及び決定に際しては、児童及び教職員の意見を十分に踏まえながら進めていくことが求められる。子どもたち自身の思いや、日々の教育活動に関わる教職員の視点を反映することで、より実効性のある取組となる。

また、特色ある教育の取組については、その実施状況や成果を踏まえ、適宜検証を行いながら改善につなげていくことが重要である。今後についても、協議会において報告及び協議を行いながら、継続的に検討していくことが求められる。

協議会としては、本提言が須山小学校及び裾野市教育委員会における今後の検討の一助となり、子どもたちにとってより良い教育環境の実現につながることを強く期待する。